

陳情第102号	受理年月日	平成27年7月28日
付託委員会	保健病院委員会	
陳情者	小倉南区下貫一丁目16-23 北九州市健康づくりセンター利用者有志一同 代表者 中島 大策 署名 1096名	
件名	北九州市健康づくりセンターの存続について	
要旨	<p>平成27年7月7日、北九州市健康づくりセンターから同センター利用者に対し、平成27年度中にセンターを閉鎖する旨の書面が送付された。閉鎖に関する事前説明はもとより、利用者への事前の聞き取りもない中での突然の通達に、私たち利用者は大いに困惑し、かつ多大な精神的苦痛を強いられている。利用者はセンターでの健康管理、成人病予防、認知症予防などを継続していく計画を今回の閉鎖決定で断念させられることになる。</p> <p>市の書面では、同センターが健康づくりに一定の役割を果たしたと判断し、(仮称)認知症支援・介護予防センターを開所するとされている。しかし、私たち利用者はまさにこの目的こそがセンターの存在意義であると考えている。昨今の医学理論において中高年者の日常的かつ継続的な運動こそが認知症予防に効果があるとされているからである。</p> <p>また、閉鎖の理由として民間スポーツクラブの増加や市民センターでの健康づくりの実施を挙げているが、民間の利用料金はセンターの月額利用料金の3倍から5倍であり、年金生活の多い利用者にとってはかなりの負担増となる。また、専門医による定期的な健康チェックやシステム等もなく疾病の早期発見などは期待できず、更に、80歳の年齢制限を設けているところが多いことから、センターの代替にはなり得ない。</p> <p>加えて、利用者が小倉北・南区に偏在し固定化していることや多額の公費負担があることを廃止理由としているが、これらは市のセンター利用のPRのまずさや利用料金を増額しなかったことに原因があるのではないか。</p>	

(続 く)

(仮称) 認知症支援・介護予防センターをなぜセンターがあるこの場所につくらなければならないのか。今やセンターは私たち利用者が生きていく上でなくてはならない存在であり、断じて廃止を許すわけにはいかない。

ついては、北九州市健康づくりセンターを存続していただきたい。